

<学びの教室コラム> 「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

幼稚園教育で大切にしていること

牧田圭子・赤井美紀子

1 はじめに

この度、鳥取大学で「幼児教育」について講義をする機会をいただいた。今まで、自分自身が研修を受けたり、教職員の研究会等で発表したりすることはあっても、自らが学生の前に立って話をさせてもらう機会などなかったもので、どのような内容で話を進めていったら良いのか？また、学生の皆さんと一緒に考えたり、声を出し合ったりできる講義をするためにはどのようにしたら良いのかを考えた。そして自分が日々の保育の中で大切にしていることを伝えたいと思い、園の子どもたちと日頃行っている遊びを取り入れながら講義を進めていくことにした。

気が付けば、この仕事について20年以上。毎日必死に子どもたちと向き合ってきたが、この機会は、自分たちの今までの保育を改めて振り返るきっかけとなり、幼児教育の大切さと、自分たちの仕事が、子どもの成長発達にとっても重要な部分を占めていることを再確認した。

このコラムでは、自分たちが日々、幼児教育の現場で大切にしていることについて実践を踏まえた講義の概要を伝えたいと思う。

2 幼稚園教諭を目指したきっかけ

私が幼稚園教諭を目指すきっかけとなったのは、身近で幼稚園教諭の仕事をしていた姉の姿だった。一年を通じて、園では様々な活動があり、四季を感じながら、子どもの成長のために保育を組み立てて準備をし、忙しい中にも子どもの成長を喜ぶ楽しそうな姿に影響を受けた。そんな姉の背中を追って、短大で資格を取り、幼稚園教諭として働く今でも「初心を忘れない」ことを大切にしている。私が就職したころに比べて、社会の情勢や保育の現場では様々な変化が起こっている。核家族化・少子化・共働きが進み、家庭の形態もさまざまである。ICT化され便利になった反面、直接電話で声を聞きながら思いを確認し合い、伝え合う温かさは減っている。夜な夜な思いを伝えようと試行錯誤して手書きをしたクラス便りも減り、パソコンやメールでの配信でエコ化に取り組んでいる。しかし、私たちが相手にしているのは人間である。子どもと一緒に言葉进行を交わし、ふれあい笑顔を育てていく。変わっていくことはあっても変わらず大切にしたいこともたくさんある。学生の皆さんにも自分の信念を持ち、学生生活を送っていただきたい。(牧田)

3 幼稚園教諭の仕事とは？

昨今、子どもを保育する場は家庭のほかには県内では、公立の幼稚園・保育園、福祉会保育園認定こども園、私立幼稚園・保育園などがある。特に私立では、その園独自の特色ある保育を展開している。しかし、子どもに関わる上で大切にしていることはどの園でも同じである。とりわけ私たちの勤務している私立幼稚園は、保育の場であるうえ教育の場でもある。「保育士」ではなく「幼稚園教諭」である私たちの仕事を、学生に問うてみた。「子どもたちと一緒に遊ぶ」

「子どものお世話をする。」という返答があった。もちろんそれが大切な仕事である。しかしただ一緒に遊ぶ・お世話をするではなく、そこには年間のカリキュラムに沿った指導や手立てを取り入れたものでなければいけない。ねらいに沿ったものでなければいけない。という教育的要素が組み込まれている。その保育を楽しく・わかりやすく・遊びの中で子どもに展開していくということが我々の仕事である。その他にも、地域の方との交流（地域に育てて頂くことは、子どもにとっても園にとっても大切なこと）小学校との交流・連携、特別支援教育についての理解・関係機関との連携、避難訓練の計画・実施、四季折々様々な行事の計画・実施、保護者対応、日々の保育の計画・準備・実施、園児一人一人の記録などこれらにはすべてP・D・C・Aサイクルを大切に行っている。中には業務の多さに驚いている学生の姿もあったがここで紹介したのは、ほんの一部である。しかしその中で、教師も子どもと共に葛藤したり、喜びあったりしながらお互いが成長していくことは素晴らしい事である。

4 大切にしたいことは・・・

いろいろあるが、楽な仕事などない。ただ、その中でどう工夫をして皆が笑顔で過ごせるのか、大切である。例えば、子どもの集中を向けたいとき、「こっち向いてー、おーい、おーい！！」と呼び続けるのか、または楽しい手遊びをして「なにかはじまるぞ！」と自発的に意識を向けさせるのか。ということである。後者の方が皆、楽しくねらいを達成できるであろう。（前者は、のどの痛みとストレスしか残らない。）そして何より、子ども一人一人の成長のためにはその姿をいろいろな見方をするのが大切である。たくさんの教師の関わりや見方を大切に、見えてくるものを教師みんなで共有する。そこに子どもの成長が見えてくる。ベテランや中堅、新人の壁などなくどの意見も子どもにとってプラスになる。教師にとっても人の意見が貴重なものになる。新人の先生の思わぬ意見に、思わず初心を思い出させられることも少なくない。それが教師同士の笑顔になり、子どもの笑顔に伝わっていく。そこで大切なのは、肯定的に考えていくことだ。学生からの質問の中に、「将来のために今できることは？」という問いに、「引き付けられる遊びの引き出しを増やしておくことよ」とお答えしたが、確かに大切である。現場では、日々の仕事に追われがちなので、学生のうちに視野を広げ、教材研究や準備をしておくのは大切である。そして「日々、心を豊かにする」ことである。目の前で起きたことにマイナスの見方をするのではなく、肯定的に前向きに捉えていくことだ。そうすることで、自分の気持ちも前向きになるし、子どももそんな風に自分を認めてくれる先生と出会えたら、幸せだろうと思う。

5 おわりに

私たちのつたない話に懸命に耳を傾けて下さった学生の皆さんが、笑顔になってくれる自己紹介や手遊び、パネルシアターなどを共有できたことで、私たちが日々大切にしていることが、言葉だけではなく、学生と一緒に創り出してくれたその場の雰囲気を感じ取って頂けたら幸いである。その感じ方も様々で、印象に残った場面も様々であろう。素材の生かし方だったかもしれない、繰り返し耳にするお話の中のリズムだったかもしれない、あるいは演じ手の表情だったかもしれない、一人一人を大切に、皆が笑顔で成長しあえる教育活動を子どもの笑顔の中で創り出していかれることに期待している。

牧田圭子・赤井美紀子（学校法人翔英学園 東みずほ幼稚園主幹教諭）